

令和2年度第1回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和2年6月25日（木）～7月7日（火）

場 所：事務局が委員6名を個別に持ち回り開催

出席者：

（委員、敬称略）中井 歩（京都産業大学教授）<委員長>
東郷 寛（近畿大学経営学部准教授）<副委員長>
伊豆田千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）
重野亜久里（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと代表）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
土江田雅史（公認会計士）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

市民活動支援課長 永田 彰
市民活動支援係長 岡部 麻紀
担当係長 坂口 景章
担当係長 市場 智久

議 事：

- (1) コロナウイルス感染拡大防止に向けた市民活動センターの対応
- (2) いきいき市民活動センターの在り方検討の進捗状況
- (3) 令和元年度市民活動総合センター事業報告
- (4) 令和元年度いきいき市民活動センター事業報告

開催概要

1 開 会

2 委員紹介

新たな選任期間（令和2年4月1日～令和4年3月31日）が開始後の第1回目の開催であり、委員長及び副委員長の選任が必要となるため、京都市市民活動センター評価委員会設置要綱の規定により、委員の互選で中井委員を委員長に、また、中井委員長の指名により東郷委員を副委員長に選任。

3 議 事

（1）コロナウイルス感染拡大防止に向けた市民活動センターの対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた京都市市民活動センターにおける対応について、施設の休館、講座・イベントの中止、開館後の感染拡大防止対策等の状況について、説明を行った。

（委員）

施設を休館したことに伴なって、指定管理料も減額されることになるのか。指定管理料を

下げるに事業運営など厳しくなる指定管理者もいるのではないか。

(事務局)

休館期間中についても、各センターに職員を配置し、電話での市民活動に関する相談対応や、施設再開後の事業企画等の検討を行ってもらっております。現時点では指定管理料の減額を行う予定はない。

(委員)

事業のオンライン開催は市民活動総合センターが得意とするところではないか。そのようなノウハウをいきいき市民活動センターに共有することも考えてはどうか。

(委員)

消毒液やビニールカーテンなどは市から各センターに配布しているのか。

(事務局)

消毒液については、センターの施設規模に応じて一定数量を市から配布しているが、その他の感染拡大防止対策に係る費用等は指定管理料の中で対応してもらっている。

(委員)

講座やイベントが開催できることにより収益が減少するセンターには、市から何等かの手当がなされるのか。

(事務局)

各センターで収益性のある事業が実施されるものではないため、今回の休館等の対応に伴って、本市から財政面での支援を行うことはない。

(2) いきいき市民活動センターの在り方検討の進捗状況

令和2年5月29日から実施している、「京都市いきいき市民活動センターの更なる進化に向けた有効活用に係るサウンディング型市場調査」の概要について説明を行った。

(委員)

一案として、大学のサテライト機能を持たせて、学生との協働をさらに図るという使い方は大学、学生、市民にとって有益かと思う。

また、コロナの影響でテレワークやリモートワークの拠点としての需要が考えられる。オフィスが「住」に近づいてきており、児童館や保育所が近いという点がメリットになるかもしれない。

利用者にとって通勤時間が短くなるメリットがあるが、一方で、その時間を何らかのセンター内の活動に参加してもらい、参加してもらったら利用料金を安くするなどの案はあるかもしれない。

いきセンにとって、「施設の有効活用」はいろいろな意味で大きな要素であると思う。

(委員)

スマートオフィスよりはスペースは必要となるが、介護や福祉系のNPOでセンターを使用して事務局を構えたいというニーズはあるかもしれない。

一方、コロナの影響で今後のNPOの活動のやり方が変わるかもしれない。場所にこだわらない活動が増えるかもしれないが、それがセンターにとって好材料となるかはわからない。

(委員)

仕事をリタイアされた高齢者で、社協や婦人会、自治会など既存の団体に属さないが社会貢献活動に参加したいという方は多数いらっしゃると思う。ボランティアではなく、ある程度有償でという要望もあるだろう。そういういた埋もれた人材はまだまだ地域に眠っていると思うので、掘り起こしをするとともに、需要と供給をつなげ、コミュニティビジネスとして確立していくことはできるのではないか。

(委員)

福祉とまちづくりの融合では、拠点を求めている事業者はいると思う。

「市民活動」について広義に捉え、「誰でも来てください」というのは今の時代と合わないのではないか。何かに特化した施設の方が、進化する施設としてかえってニーズに応えられると思う。

(3) 令和元年度市民活動総合センター事業報告

事務局からセンターの事業報告について説明し、事業報告資料に関するセンターへの質疑応答（書面により実施）を行った。

（質疑応答の内容は別紙のとおり）

(4) 令和元年度いきいき市民活動センター事業報告

事務局からセンターの事業報告について説明し、事業報告資料に関する各センターへの質疑応答（書面により実施）を行った。

（質疑応答の内容は別紙のとおり）

以上

令和元年度事業報告書に関する市民活動センター評価委員の質疑

センター	質問内容	回答
市民活動 総合セン ター	変化した団体のニーズに合わせて、組織基盤強化、接点開発講座、現場訪問の切り口で講座を再編されたが、参加者が伸びなかつた原因についてどのように分析していますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「組織基盤強化」は参加募集(広報)の方法に要因があった。実施に際して、個別相談の段階でニーズを見出し、専門家相談会の枠として設定したが、募集に際して、通常の広く参加を呼び掛けるホームページ掲載やチラシによる集客では日程が設定されている開催日への牽引が難しく、個別相談時に次のステップとして参加を促す形式が良いと分析している。 ・「接点開発講座」及び「現場訪問」は共に活動団体と市民(潜在的関心層)をつなぐ(知る)を目的として企画し、集客告知において、通常の広報に加え、つながる団体の活動内容(種類)に、関心を示しそうな対象者への広報(告知)をかける予定であったが広報先のリストアップやターゲット選定が事前に出来ず、通常の広報だけになり、集客が稀少になったと分析している。
	今後、講座をどのような方向性で進めていこうと考えていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「組織基盤強化」は今後個別相談時に該当する団体があれば、専門家相談の随時枠設定にて対応する方向で進める。 ・「接点開発講座」及び「現場訪問」では集客のための広報戦略や告知の打ち出し方を再考する事として、次年度は休止する。 ・講座全体としては、初步講座では団体の活動を支援する支援者を対象として、何らかの形で市民活動に触れる機会(公開講座等)の提供をメインとして進める。設立・認定分野では団体の運営面でのスキルアップ(書類作成・会計技能・労務規程等)を後押しする講座内容を中心に据えて実施を考えている。
	利用者アンケートを拝見するとセンターの利用者の利用目的がフロアでのミーティング作業でフロアの充実を希望する人が多いようだが、実際にどのような団体がどのようにフロアを活用されているのか、教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングルーム利用を含め、フロアデスクにて少数(10名未満)で打合せ(月 1~2 回の定例会合等)を行っている団体が中心であり、同時に資料作成として印刷機(1,000 枚単位)を利用している。 ・個人利用としては毎日のように公開 PC で情報検索を行っている個人または団体の一員や小型デスクで個人 PC にて書類作成作業を行っている方が中心である。 ・利用者からの声として、ミーティングルームが予約制(総会・理事会等除く)ではないため、事前に場所確保ができなくて困ることもあるとのこと。しかし、施設利用者へ公平に活用して頂くための処置であることは認識して頂いている。利用方法の改善は常に検討している。 ・印刷機以外に無料で使える裁断機・紙折機は故障が頻繁にあり、その都度、修繕(部品交換等)しているが、いつ全く使え

		なくなるか判らないので新しい機材にして欲しいとの声もある。なお、毎週末職員によるメンテナンス(部品清掃作業)を実施している。
北 いきセン	いくつかのセンターで盆踊りに関する事業が実施されているが、センター間での交流や連携はありますか？	過去には、錦林と合同で練習会等を開催していたことはある。しかし、現在は、楽只の地元住民や地元に関わっている人で『盆踊り保存会』を結成しており、他にはないような自前の音頭取りによる盆踊りとなっています。
岡崎 いきセン	買い物しすぎる人たちと共に開催した当事者の方の、イベント後の変化、活動動向についてもう少し詳しく教えていただきたい。(団体の設立や新たなイベント企画など)	ご質問ありがとうございます。当事者の方からご返答がありましたのでお伝えさせていただきます。 イベント後の変化は特になく、活動をそろそろ始めていこうとした矢先にコロナ騒ぎになってしまい、今は活動の再開に至っていないという事です。イベント後からもブログの更新は続けていて、今後再開する可能性はあるという事です。 また、デリケートな問題を抱えた当事者という事もあり、気持ちの浮き沈みがあるため、当センターでは今は動向を見守っている状態です。
左京東部 いきセン	「多文化共生について日本語で話そう」では、左京東部の近隣に住む外国人の住民はどのくらい参加していますか？ 錦林盆踊り大会の企画や運営などに、地域住民や参加団体はどの程度関わっていますか？実行委員会形式などを導入していますか？外部の人や団体の参加によって「より開かれた祭」となり多様な交流が生まれ、事業がより大きく育ってきていますが、それに対する地域住民の反発などのマイナス面は発生していませんか？	アンケートで居住地を聞いていないので、定かではありません。地元学区(錦林東山学区)からはほとんど参加されていなかったと思います。 地域団体と協働して企画、設営から運営まで行っています。実行委員会形式を導入しています。外部に開かれていることに対して、地元からは反発などは出ていません。むしろ歓迎されている印象です。
左京西部 いきセン	盆踊りで、左京東部との連携はありますか？また盆踊りに関わる各センターの団体間の交流や連携はありますか？	左京東部について：会場設営・撤収は東部西部の垣根を越えて全職員でおこなっている。祭りの演目や出店の段取りを進めるコーディネーターは同じ職員がおこなっているので、地域に合わせて変える部分や共有する部分を調整している。どちらの祭りも地域団体と協働で実施しているが、それぞれの地

		<p>域団体が相手側の祭りに参加して比較しあうことで刺激を受けて次の課題や目標が可視化されることが最も重要な連携ではないかと考えている。</p> <p>各センターについて：今年から醍醐で盆踊りが実施されたが、その盆踊りの歌い手について東部と同じ方が担っている。このように今後も西部・東部ともに盆踊りは拡充して実施していくが、それをモデルケースにして各センターの盆踊りの実施形態が発展していくことを期待しており、機会があればもっと具体性を伴った連携も実現していきたい。</p>
中京 いきセン	<p>「はっぴー子どもの楽園」について、この事業のターゲットの子どもの年齢はいくつですか？第3回目と4回目は参加者が0でしたが、この会の対象者年齢は？</p> <p>この事業の協力団体は当日以外、企画や運営に関わっていますか？また、事業後、協力団体と事業について何か検討を行いましたか？（未実施でしたが、学生グループと事業について話あいましたか？）</p>	<p>第3回目 10月5日・20日は小学4年～6年生</p> <p>第4回目 11月16日は小学1年～3年生</p> <p>協力団体の方は、大学生ですが、企画・運営するのに何度も打ち合わせをし、当日も関わって頂く予定でした。</p> <p>事業後は、話し合いをし、企画は良かったし、広報も細かく配布したが、保護者同伴が参加しにくかったのではないかと案がでました。子ども達が気軽に来やすい内容にし、来やすくなつてから保護者の手順にするなど意見がありました。</p>
東山 いきセン	<p>SocialEchoes で若年層の参加が伸び悩んだとあります、当日はどのような層が参加していたのか？</p> <p>その、原因分析と今後のどのような方向性で進めていくのかを聞かせてください。</p>	<p>初期登録は18名ほどあり、そのうち7割は50代～60代の方々が多く参加くださいました。残りの3割程度が30代～40代で、10～20代がほとんどおらず、もっと10～20代の大学生などにも関わってもらいたかった。原因としてはfacebook やチラシといった若者へのリーチとしてはあまり効果的じゃなかったツールを活用したことや、動画制作のノウハウを学び、仕事につなげたいというニーズはある程度年齢が行った人々には刺さるが、学生にはイメージがしづらかったのではないかということが考えられる。今後の方向性としては、運営面で一緒に携わってくれている大学生に広報協力をお願いし、大学生の参画を促していく予定です。</p>
	<p>NUINUI 工房は子育て世代の社会復帰の1つとして「ものづくり」を学ぶとあるが、だいご手芸部以外はどのような講師が担当</p>	<p>全て当センターのスタッフが担当しています。担当スタッフは元々プロの作家として活動している人材で、デザイン・試作品作り・当日のレクチャーなどを担当し、別のスタッフが参加者の呼びかけや当日の進行などの事務を分担して行っています。</p>

	しましたか？	本事業は、スタッフの専門性を社会のために活かすことができないかと考え生まれた事業です。そこに本来は廃棄となる「ハギレ」を何とか活用できないかという企業の想いが重なり、NuiNui工房という事業が生まれました。
下京 いきセン	Carreはデザインもよく、とても素敵な情報誌になっていると思います。この情報誌は、地域のどのような場所に設置・配布していますか？	市の交換便を通じて、各関係センターへ設置配布を行い、当センターで配架及び、手配りで近隣の店舗へ配布を行っています。
	連続講座では、地域住民の方はどのくらい参加されていましたか？（把握していればおしえてください）	申込み時に住所を確認しておりませんので、不明です。少なくとも、3名は下京区で活動されている方でした。年齢層は、高校生から勤労者、シルバー世代の幅広い参加がありました。
吉祥院 いきセン	吉祥院いきセンでは、メインの事業に実行委員会形式を導入していますが、次のステップとしてこれらの事業がセンターの支援なしで事業を成功させるためにはどのような課題があると考えていますか？	<p>市民活性化事業予算を前提に事業計画を立てているため、「センターの支援なし=予算措置なし」であれば、事業規模を維持するために、法人予算や参加費、寄付金等で同等の収入を確保することは大きな課題であり実質的に困難である。必然的に事業規模を見直すことになると考える。</p> <p>経費が最もかかるふれあいジャンボリーの場合、子どもから高齢者まで多くの学区民が来場する学区最大の事業となっており、実行委員会には学区のほとんどの各種団体等が参画し、準備段階から関わりをもっている。また当日は警察、京都市等の行政の取り組みの啓発の機会もあり、京都市の補助金で実施されている区民ふれあい祭りの学区版的なものとなっている。</p> <p>事業の実施に公的資金が充てられることは、意義が大きいと考えるが、「市の予算措置」がなくなるのであれば、見直し（縮小・廃止）せざるを得なくなる。</p> <p>一番の課題となるのが運営資金の調達。現在実施している事業規模を見直すとともに、法人の予算補助、助成金等の活用や、ベース売上収入の何%を還元してもらうなど、運営資金を今後は貯蓄していく方法も考えていく必要があると考える。また、これらの事業を「自分たちが運営していく」という意識づくりと組織の強化も必要であると考える。</p>
上鳥羽北部 いきセン	いきせんパートナー事業で、登録団体と吉祥院のイベントに参加されていますが、参加した登録団体か	<ul style="list-style-type: none"> 登録団体の反応について <p>当日終了後の反省会に4団体のうち3団体の方が参加されました。そこで参加者同士連絡先を交換し積極的に情報収集されている姿がありました。後日、代表者へ市民から活動の問合</p>

	<p>らどのような反応がありましたか？（新しい活動の提案や気づきなど）？また。これを契機に、吉祥院と新たな事業連携の動きなどはありますか？</p>	<p>せがあったということも聞いてます。各団体からは活動発表の場があったこと、新しい出会いがあったことなどは有意義でした、と感想をいただいています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉祥院いきセンとの連携について <p>今年度の「ふれあいひろば」については、第1回実行委員会が8月に開催されるということなので出席します。その他の連携については、状況を見極めながらオンライン活用事業など念頭に意見交換していきたいと思います。</p>
	<p>「上鳥羽夏の夜市」実行委員会には、自治会や社会福祉施設、いきセンの他には、地域住民や地域団体なども参加していましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加がありました。 <p>構成は以下のとおりです。</p> <p>《実行委員会構成団体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上鳥羽自治連合会 ・上鳥羽体育振興会 ・上鳥羽民生児童委員会 ・上鳥羽少年補導委員会 ・上鳥羽消防分団 ・上鳥羽交通対策協議会 ・上鳥羽小学校 P T A ・おやじの会 ・上鳥羽中唐戸児童館 ・清和園鳥羽ホーム ・上鳥羽北部いきいき市民活動センター <p>以上です。</p>
上鳥羽南部 いきセン	<p>上鳥羽地域交流フェスティバルでは、昨年に比べて参加数が増加していますが、参加団体数の増減について教えてください（新規の団体があれば新規の団体数も教えてください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>参加団体の増減について</u> <p>平成30年度は7団体の参加がありました。（85名・出演者含む）</p> <p>参加団体名は、（「南風」（和太鼓演奏）・「山ノ本児童館」（キッズダンス）・「ハナミズキ」（大正琴演奏）・「立命館大学」（落語）・「シアターワーク京都そらまめ」（大衆演芸）・「上鳥羽六斎ジュニア」（六斎伝統文化）・上鳥羽自治連合会末広会（交流会・おもてなし）です。</p> <p>令和元年度では1団体増え、8団体の参加となりました。（110名・出演者含む）</p> <p>内、新規の団体（出演者）は2団体。</p> <p>ともに初出演の団体です。他の5団体は平成30年度と同じ団体です。</p> <p>令和元年度からNPO法人SOLとの連携・協働が深まり、活動の幅が広がりました。その結果、平成30年度に比べて参加者も25名増加しました。</p>

久世 いきセン	<p>「卓球サークル」で上鳥羽南部いきセンと交流とあります、事業実施に関して企画や広報などでの連携や両センターの登録団体間の交流などはありましたか？</p>	<p>上鳥羽南部いきセンの事業見学に行った際にお互いに「卓球サークル」があるのを知り卓球交流をしませんか？と声をかけ企画し両センターの登録団体「卓球サークル」同士で卓球をし交流親睦を深めました。</p>
	<p>昨年度、ふれあいサロン祭で大学生との連携があつたと思いますが、今年度、大学生の活動への継続参加はありましたか？</p>	<p>むすぶネットは継続的に登録していますが今年度は連携ができませんでした。次年度は大学生の活動への参加も考えたいと思います。</p>
醍醐 いきセン	<p>「NUINUI工房」で、東山いきセンとコラボし、参加した手芸部は、活動意欲が高まり、新たな交流が生まれたとあり、とても良い機会になっていたようだが、企画をした東山センターは、当事業について子育て世代が必要としている社会復帰の一助として「ものづくり」を学ぶという目標は、十分に達成できなかつたと振り返っています。実際に共同して、その点についてはどのように感じましたか、もっと子育て世代の「ものづくり」を学ぶ機会を作りにはどのような工夫があれば良いと感じましたか？</p>	<p>東山いきいき市民活動センターの「NUINUI工房」目標は東山いきセンが事業の総体的な評価として報告書に記載されたとのことです。（東山いきいき市民活動センター長、確認済み。）</p> <p>今回の反省点としては、東山のいきセンとのコラボ事業で、打ち合わせの段階で東山いきセンと目標の設定が出来てなかつたのと、振り返りの機会も持つべきでした。</p> <p>そこを踏まえて、当センターとしては多世代、他地域交流という目標は達成できました。</p> <p>10組中6組は子育て世代の方が参加されて社会復帰の一助のきっかけにはなったと思います。</p> <p>他のいきセンからの参加もあり、いきセン間の交流もできました。</p> <p>参加者の中には、今回の事業がきっかけで当センターの別の事業にも参加されるなど、大きな成果につながったと思います。</p> <p>コロナがなければ、東山いきセンの事業にも参加したいとの声もありました。</p> <p>上記の点を、醍醐いきセンと東山いきセンの目標の違いが生じていると、ご理解いただけますと幸いです。</p> <p>質問の答えとしては、子育て世代のものづくりを学ぶ機会を作るなら、保育スペースや授乳スペースの確保とスタッフも多めに配置をし、こどもを連れてきても参加しやすい環境を作つてあげる必要があると思います。（コラボ事業には用意しました。）。</p> <p>あと、当センターで実施した事業もリサーチ不足で参加が少</p>

		ない時があったので、親子で気軽に参加できるカフェなどを実施しヒアリングすることが重要と思います。
伏見 いきセン	報告を拝見して、どの事業も順調に展開されていっていると感じました。各事業の現在の課題、できていないなと感じていること、苦労していることなど、小さなことでも良いので教えてください。	<p>>どの事業も順調に展開されていっていると感じました。</p> <p>ありがとうございます。活性化事業だけでなく、独自の取り組みと連動させながら、活動支援が面的に展開できるように取り組んでいきたいと思います。</p> <p>>各事業の現在の課題、できていないなと感じていること、苦労していることなど</p> <p>センター単体で事業を実施するのではなく、必要に応じて共に事業をすすめていく団体を探す必要があると考えています。広報協力だけでなく、企画段階から携わってくださる団体を事業内容に応じて連携していくことを更に発展させて展開していきたいと思います。</p> <p>長年行なっている事業については、以前から参加してくださっている方に加えて、新規参加者をどのように呼び込むかという工夫が必要になってきています。現状でも多くの方にご参加いただいているが、新しい層を呼び込みながらコミュニティをつくっていく必要があります。</p>